



千葉市 基本計画

第1章～6章

はじめに

この「千葉市基本計画」（以下、「本計画」という。）は、100 年先の未来を見据え、市民・団体・企業・大学等を含む教育機関、そして行政などまちに関係する多様な主体がともに手を携えながら、わたしたちの千葉市をより豊かなものとしていくためのまちづくりの方向性を明らかにする計画です。

1 策定の趣旨

千葉市はこれまで、人口減少と少子高齢化の進行をはじめとするまちづくりの重要な課題に的確に対応するべく、「わたしから！未来へつなぐ まちづくり」をコンセプトとする千葉市新基本計画のもと、様々な取組みを進めてきました。

また、千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（平成27～令和4年度（2015～2022年度））を策定し、総合計画の理念や目標を共有しつつ、地方創生の取組みを積極的に展開してきました。これらの取組みにより、子育て・教育環境の充実、地域包括ケアシステムの構築・強化、地域経済の活性化などで成果を挙げてきたところですが、遠くない将来には本市の人口も減少局面に突入することが見込まれており、これまでの計画・戦略を引き継ぐ本計画は、将来の本格的な人口減少期に向けた「準備段階」としての性格を有する計画となります。

そのため、社会経済の様々な部分で不確実性が高まる中においても、少子高齢化の進行とこれに伴う生産年齢人口の減少といった人口統計的な変化に加え、IoT¹、AI²等テクノロジーの進展、さらには地球温暖化に伴う気候変動リスクの増大、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした新しい行動様式の浸透などによる個人の価値観やライフスタイルに関する変化などを的確に捉えるとともに、より長期的な将来を展望しながら、千葉市ならではのまちづくりの方向性を定めることが重要です。

千葉市は、令和3年（2021年）1月、市制施行から100周年の節目を迎え、その歩みを振り返った時、この100年間は都市としての成長の歴史ということが出来ます。

これからの100年先の未来、わたしたちの「郷土千葉市」はどのような姿に変わっているのでしょうか。

これからの100年を見据えた次なるステージへの幕開け期の計画として、市民はもとより、団体・企業・大学等・行政など多様な主体がみんなで目指す未来の千葉市の姿を共有し、その実現に向け、一層連携できるよう、本計画を策定します。

¹ IoT：Internet of Thingsの略称。自動車、家電、センサーなど、様々なモノがインターネットにつながり、情報のやりとりをすること。それによりデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。

² AI：Artificial Intelligenceの略称。人工知能のこと。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念で理解されている。「画像認識」や「音声認識」、「自然言語処理」など多岐にわたる分野に応用されている。

2 100年先を見据えた「千葉市ならではの」の計画とするために

本計画の策定に当たっては、100年先を見据えた「千葉市ならではの」の計画とすることができるよう、次の4つのことに留意しました。

（1）千葉市の特性を活かした計画

都市は、自然や歴史を背景に、様々な「いろ」や「かお」などの特性を持っています。

100年先の将来にわたり、人々から選ばれ、愛される、活力のある豊かな都市であり続けるためには、千葉市ならではの特性や個性を活かしたまちづくりが重要です。

そこで、まちづくりに携わるすべての主体が共有し、磨き上げて未来に引き継ぐべき千葉市の特性を明らかにし、まちづくりの基本的な方向性を定めました。

（2）中長期的な未来を見据えた計画

2040年頃、我が国の人口構造は人口減少が深刻化し、高齢者人口がピークを迎え、また、人口増加期に集中的に整備してきた公共施設・インフラの老朽化に伴い更新需要が高まるなど、様々な課題が生じることが想定されています。

また、人口・都市機能の集中する大都市を中心に新型コロナウイルス感染症が拡大する中、暮らしや働き方など社会経済活動の様々な場面において、新しい技術を活用した社会変化に即応できるまちづくりが求められています。

このような顕在化してくる諸課題に対応し、官民連携のもと、将来にわたり持続可能な都市経営を図るため、計画期間のさらに先まで見据えつつ、10年後に実現したい姿を描くとともに、2040年頃を展望した社会変化、将来リスク、SDGs³の「誰一人取り残さない」といった視点等を踏まえ、この10年間に重点的に推進する政策及び分野目標を位置付けました。

（3）みんなで共有し、みんなで取り組むまちづくりの計画

千葉市新基本計画では、「わたしから！未来へつなぐ まちづくり」をまちづくりのコンセプトに、多様な主体の連携が織りなす「まちづくりの底力」を「まちづくりを支える力」と位置付け、計画の推進を図ってきました。

これまでの取組みにより、多くの市民、団体が地域に根差した活動を展開していることから、本計画では、行政が担ってきた様々な機能についても、多様な主体がサービス提供や課題解決の担い手としてより一層関わっていくことを目指し、「まちづくりを支える力」を「まちづくりを進める力」へとさらに発展させていくことを志向しています。

また、策定段階から、まちづくりに携わる多様な主体がみんなで共有できる計画とするため、市民、学識経験者、各種団体の代表などから構成される、千葉市新基本計画審議会での審議はもとより、「千葉市100人未来会議」や「千葉市まちづくり未来研究所」など様々な市民参加の取組みを通じて、市民をはじめとする多様な主体が未来の千葉市に馳せる夢や想いを、計画に積極的に反映しました。

³ SDGs（持続可能な開発目標）：Sustainable Development Goalsの略称。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて定められた2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す持続可能な開発目標のこと。貧困の根絶、ジェンダー平等、気候変動対策などの17のゴールと169のターゲットを定めている。

(4) 地方創生を進める計画

本計画は、人口減少に伴う課題の克服と地域の活性化を目指す、地方創生の理念と目的を同じくするものです。

総合的かつ戦略的なまちづくりにより、今後の地方創生の取組みの一層の推進を図るため、「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を基本計画及びこれに基づき具体的な取組みを定める実施計画に継承・統合しました。

これに伴い、人口・地域経済等の分析を行うとともに、「まちづくりの基本方針」において、「未来のまちづくりに向けた戦略的視点」を位置付けました。



千葉市制100周年記念絵画コンクール 市長賞
タイトル：「1000年先までつづいてゆけ！！輝く千葉市へ」
受賞者：都賀の台小学校 6年生 梅澤 広太さん

3 計画体系・計画期間

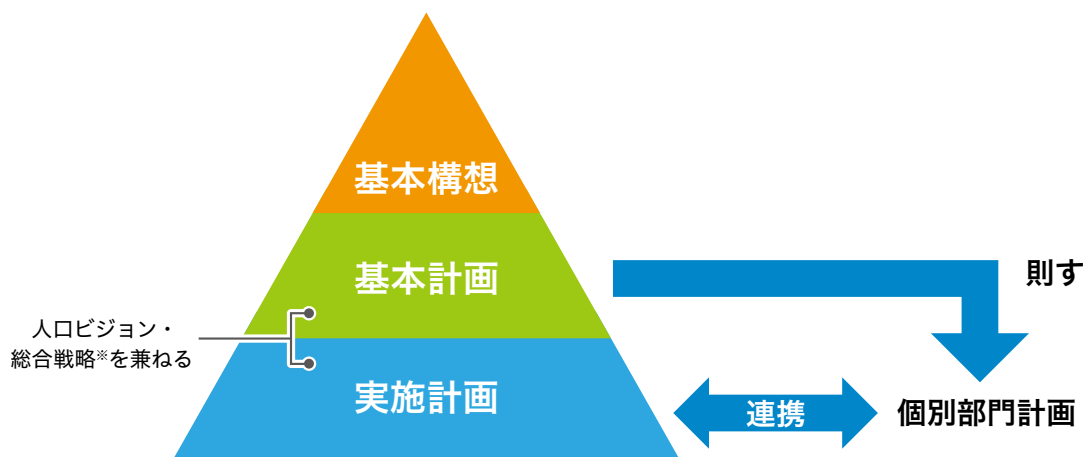
(1) 計画体系

本計画は、「千葉市基本構想」で定める基本目標である「人とまち いきいきと幸せに輝く都市」の実現のために、将来を見据えた中長期的な市政運営の基本方針を示し、必要な施策・取組みを、総合的かつ体系的に取りまとめたものです。

本計画に基づく取組みを計画的に推進していくため、中期的により具体的な事業内容を示す実施計画を策定することとし、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構造による計画体系により、社会経済状況の変化等に柔軟に対応していきます。

また、市政の特定の課題等への対応を目的とする各個別部門計画の策定にあたっては、上位計画である本計画が掲げる基本方針や分野ごとの目標等を踏まえるとともに、施策の展開における連携、整合を図ります。

なお、地方創生の取組みとの一体的な推進を図るため、本計画及び本計画に基づく実施計画は、千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略を兼ねるものとして策定します。



基本構想

○市政運営の指針として、変化の激しい時代であっても変わることのない恒久的な都市づくりの基本理念・基本目標及び望ましい都市の姿を示しています。

【基本理念】人間尊重・市民生活優先

【基本目標】人とまち いきいきと幸せに輝く都市

【望ましい都市の姿】

- ①自然を身近に感じるまち・千葉市
- ②健やかに安心して暮らせるまち・千葉市
- ③安全で快適なまち・千葉市
- ④豊かな創造力をはぐくむまち・千葉市
- ⑤はつらつとした活力のあるまち・千葉市
- ⑥共に築いていくまち・千葉市

基本計画

○基本構想で定める基本目標等を実現するため、まちづくりの方向性などを示す基本方針や今後の施策展開などを示しています。

実施計画

○基本計画に基づく具体的な事業を示しています。

※人口ビジョン・総合戦略

目指すべき人口の将来展望とその達成に向けた取組み

(2) 計画期間

本計画の計画期間は、令和5年（2023年）4月1日から令和15年（2033年）3月31日までの10年間です。

本計画の取組みを具体的に示す、実施計画の計画期間は3年間とし、第1次実施計画の計画期間は、令和5年度（2023年度）から令和7年度（2025年度）とします。